



発行日 1998年11月20日

発行人 松永然道 編集責任者 福島伸悦

発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒3610003 埼玉県行田市下中条1619-2

Tel. 0485-57-0999 Fax. 0485-57-2347 URL: <http://www.pa.airnet.ne.jp/szi>

郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

Vol.13



世界宗教者平和の祈り 於 ルーマニア・ブカレスト エミール・コンスタンチネスク大統領挨拶

C O N T E N T S

● 巻頭 2

『世界宗教者平和の祈り集会によせて』

SZI会長 松永然道

● 特集 3

海外布教シンポジウムレポート

ー仏教東漸『異文化圏で育つ仏法』ー

愛知学院大学院研究員 浅井宣亮

● 海外インフォメーション 5

・ニューヨーク

『同じ空の下で』 滋賀県覚伝寺副住職 宮前憲生

・サンフランシスコ

『鈴木俊隆学会に出席して思ったこと』

愛知学院大学院研究員 浅井宣亮

・ルーマニア

『世界宗教者平和の祈りレポート』

SZI事務局長 福島伸悦

・ドイツ

『大悲山普門寺便り』 普門寺堂頭 中川正壽

● 特別寄稿 12

『互いに学びあえたら』

静岡県 松永道代

● SZIだより 13

・活動日誌

・大谷有為師マウイ島満徳寺赴任報告

・黒田武志師国際栄誉賞授賞

・葉貫成悟師、古溪理哉師辞任

・通信欄 原田道一師より

山端法玄師より

森山太行師より

藤田一照師より

・会費納入者・寄付者リスト

世界宗教者平和の祈り集会によせて

SZI会長 松永 然道



朝日新聞にトンボの眼というコラムがある。社会のあらゆる出来事を複眼的に見てゆこうという欄である。トンボの眼は数万の個眼が集まっていて、ひとつひとつの個眼は部分、断片しか見えず、それぞれの像をつなぎ合わせて全体像をつくっ

ている。視界は人間よりひろいとのこと。

それからいくと私の眼は、トンボの個眼ぐらいの働きしかしていないのだと思う。毎年世界宗教者平和の祈りの集会がイタリアを中心として開かれてきた。今年で12回目になる。周知のように、この祈りの集会はローマ市の聖エジディオ教会に本部を置く、カトリック青年信徒組織がバチカン法王庁と密接な関係を持ちながら主催するものである。世界のあらゆる宗教者をこれだけ集めることの出来るのはカトリックだからであろう。

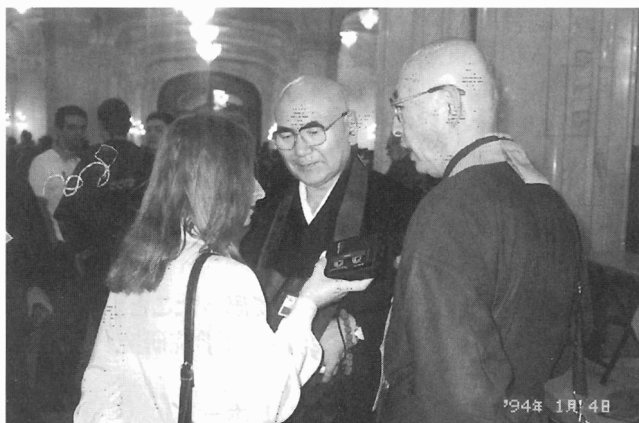
今年の集会は例年より1ヶ月程早くコンスタンチネスク・ルーマニア大統領の平和を希求する切なる願いにより、東欧の地ルーマニアのブカレストで、8月30日より3日間に亘り開かれた。

人類は第1次、第2次の世界大戦において7、8千万の人々の生命を抹殺してきた。20世紀が正に略奪と虐殺の世紀と云われる所以だ。この20世紀が終わろうとする時期にあっても尚、人類の殺し合いの終焉に見通しが無い。人類は己の愚行にとどめをさすことの出来ない生き物なのだろうか。21世紀末までには人口が百億を越えると予想される。人口の増加は、職と食を求めて人口の大移動がおこることが予想される。失業者は10億人にのぼり、絶対貧困者は12億と予想されている。その結果、自己中心的なナショナリズム、リージョナリズム、グローバリズムが勃興し兵器は否応なく拡散する。経済は市場主義が中心となり、情報通信による人間疎外の影が益々大きくなる。そうなるからでは遅すぎることは誰

にでも分かっていることである。今われわれ宗教者がなさなければならないことは何なのか、私はこの平和の祈り集会に参加する度に、宗教者の祈りだけで実質的な平和を招来することの難しさを感じることがある。

私たちの眼は個眼であり、部分的、断片的にしか世界が見えない。人が何を見ているのか分からない。分からないことが当然であるが、エジディオ共同体の会員の人々はすでに何かを見つけている。祈りによってこの世に平和をもたらすことが出来るという強い信念である。信仰心に裏打ちされた無償の奉仕が十年以上にも亘って集会を続けさせた。更にそれが世界の諸宗教の交流をも定着させてきたのである。

今年のルーマニアにおける集会も世界各国からの諸宗教者を自国に招き、独裁国家であった悲劇から立ち直りつつある姿を世界の人々にみてもらい、自国民にはこの様な大きな世界大会が持てた自信と誇りをもたせ、周辺の国々と同じく政治、経済と民族、文化の混乱から立ち直ってゆく自覚を得せしめようとしての思いがこの大会を開かせたのだとするならば、そこに祈りによって世界の平和をかすかながら望める一つの証であるのかもしれない。



現地新聞社によるインタビューの様子

特 集

海外布教シンポジウムレポート テーマ 仏教東漸「異文化圏で育つ仏法」

愛知学院大学研究員 浅井 宣亮



青山俊董老師

愛知専門尼僧堂主催、S Z I 企画共催により、「仏教東漸「異文化圏で育つ仏法」」をテーマとする海外布教シンポジウムが、6月15日愛知専門尼僧堂において開催された。

青山俊董愛知専門尼僧堂堂長老師の導師により、開講式が営まれ、引き続いてS Z I 会長である松永然道老師と、本シンポジウム開催にあたり色々協力していただいた愛知県第一宗務所所長である加藤研吾老師が挨拶された。

次に「北米巡回布教をとおして」と題した青山老師の以下のような基調講演がおこなわれた。

「20年程前に東西靈性交流会に出席して以来、海外に行く機会がある時は、『真理は一つ、切り口のの違いで争わぬ。』という余語老師の言葉を心に持って行くことにしています。余語老師は「法」を水の流れに例えられました。また、沢木老師は『飲み方に流儀があっても、胃の消化に違いはない。』と言っておられます。そして、地球を外から眺めた経験を持つある宇宙飛行士は『神の名、宗教の名はローカルだ。』と感想を述べています。

茶筒のような円筒形の物を二つに切る場合、同じ茶筒でも切る角度によってその切り口の形は異なり、四角になったり丸になったりします。このことと同様に、キリストの切り口とシャカの切り口の形は異なります。キリスト教は砂漠の宗教であり、仏教はモンスーンの宗教であるため、自ずと切る角度は異なってきます。このような切り口の相違は必要があってできたものであるから、大事にしていきましょう。自分の切り口も大切、他人の切り口も大切なものです。

中国には「南船北馬」という言葉があります。これは、北は儒教、南は道教という意味ですが、前者は砂漠、直線、父なるもの、厳しい、狩猟を連想させ、後者は海・水、曲線、母なるもの、優しい、農耕を連想させるものです。一方、桜は散るが、牡丹はくずれる、というように、日本には花に関して色々な言葉があります。この他に雨をあらわす言葉も、日本には多くあります。しかし、砂漠の国では砂をあらわす言葉が多く、北欧では氷をあらわす言葉が多くあります。また砂漠の宗教であるイスラム教が説く浄土は「涼しい・緑・とげのない木」というものになっています。このような、地域、自然環境による切り口の相違は当然のことであり、無視せず、大切にしなければなりません。

このように、授かった自然の違いというものは、私達に大きな影響をあたえています。

ところで、仏教の教えの中にも色々な説相があります。しかし、『宗論はどちらが勝ってもシャカの恥。』という言葉があるように、どの説も大事なものであると思います。北米巡回布教をとおして得た感想は、『「不易と流行」ということを忘れてはならない。』ということです。不易とは、諸説のある仏教の中でも、この一点が変わったら仏教ではなくなるというもので、流行とは、むしろ変わった方がいいという側面のことです。

不易は重要ですが、流行は押し付けてはだめです。例えば、先祖供養は日本的要素が強い流行でしょう。異文化圏への布教を考えた場合、不易つまり個人の救済を真剣に考えなければなりません。本当の落着き所を示すのが仏法でしょう。しかし、法はひとり歩きするものではなく、人が背負っていくものです。したがって、人を選ぶことが必要です。そして、ひとりひとりが自分から始めることが大切です。人々が本当に自覚すれば、世界は変わるでしょう。

インドから伝わった仏教が、真に日本的展開をみせたのは鎌倉時代であり700年かかっています。アメリカにおいても、時間をかけてアメリカ仏教を展開してもらいたいと思います。」

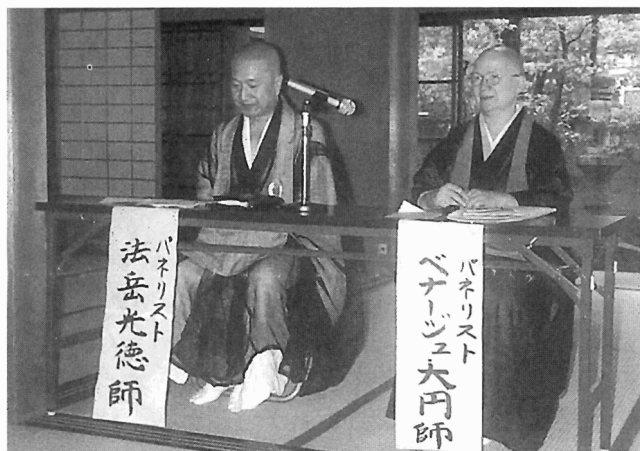
そして引き続き、パネリストとしてベナーージュ大円師（米国 ペンシルバニア州 マウント・エクティ禅堂堂長）・法岳光徳師（のりたけこうとく

京都府 宝泉寺住職（臨済宗） 花崗大学禅文化研究所研究員）・青山老師、コーディネーターとして 峯岸正典師（群馬県 長楽寺住職 曹洞宗海外開教審議会委員）を迎えたパネルディスカッションが開催された。

大円師は北米における布教活動を通じ、「アメリカで、日本的仏教ではない純粋な仏教（ジャスト仏教）を教えてほしいと言われたことがあります。しかしながら、アメリカは個人主義の国であるため、不易のひとつである‘当願衆生’の心を伝えることが難しく思えます。

また、私の禅堂は田舎にあり、クエーカーと呼ばれるキリスト教の一派が盛んな地域であるため、剃髪して衣を着ていると、村八分になっているような不便を感じます。私の格好を恐いという人も多いので、髪をのばし普通の格好をした方が、より多くの人に禅を伝えることができるのではと考えることもあります。これに関しては、メンバーの意見も半々です。

アメリカでは、僧侶の数が少ないこともあり、出家僧侶が禅を教える方が少ないと思います。そして、仏教とは無関係のようなニューエイジ禅も盛んです。大円さんのところは、仏教徒でなければ坐禅できないということで、TMのようなニューエイジ禅のセンターに行った人もいました。このように、アメリカの禅を取り巻く環境は、特に田舎では、非常に日本と異なっています。」という意見を述べた。



続いて、法岳師が臨済僧が取り組んできた禅の国際化、韓国仏教事情について意見を述べた。「臨済宗では山田無文老師の意志に基づき、情報が禅研究所に集まるようにし、海外からの人々の受け入れ体制も整えられました。例えば、私が神勝寺国際禅堂にいた9年間の間には、40数カ国から約3000名の入門者がありました。また現在、宝泉寺禅センターも発足2年目となり、岡山曹源寺・京都国際禅堂などでも海外からの人を受け入れています。しかしながら、日本での長期の修行にはビザの問題などが存在します。

ところで、私は、大円さんがいわれたジャスト仏教は‘まごころ’であると思います。純粋な心（まごころ）を禅といいます。そして坐禅の目的は、日本人でもなければ外国人でもない本来の人間性に目覚めることにあります。この体験は、万物への愛情を高め、人種、民族、宗教、国家を超え、心身ともに健康な人創りと、人間性豊かな平和な世界を築く原動力となります。仏を殺し、祖師を殺し、教団を離れてこそ仏法は育ちます。

一方、現在日本の臨済宗には、20年前に閉単して以来尼僧道場がありません。道場を求められた場合は、愛知尼僧堂を紹介しています。しかし、台湾・韓国では尼僧団は非常に強い力を持っています。韓国では、男僧教団に属しては尼僧は小さな寺の住職にしかねないということで、尼僧団は独立した教団を作るにいたりました。韓国では、自国の居心地が悪ければ、老師も外にでていきます。これは日本とは異なる特色です。」

そして、峯岸師がシンポジウムをまとめて、「僧堂は仏法の伝統を身につける場所です。このような尼僧堂で‘異文化圏で育つ仏法’というシンポジウムが開かれた意義はどのようなものなのでしょうか。

異質なものに触れ合うと、それまで自明と思っていたことの意味を考えさせられます。例えば、剃髪することは日本の僧侶であればごく自然なことで、社会もそれを当然なこととして受け入れ、その意味を考えることは余りないのではないのでしょうか。しかし、大円さんのように、剃髪という慣習がない異文化に接した時に、人はその意味を深く考えざるをえません。‘剃髪’は煩惱を断つという意味を持っています。そして髪は煩惱と同じくまたのびてくるので、定期的に頭を剃ることが必要なのです。

ドイツの哲学者ガバナーは『理解とは真理と出会って変わることだ。』と言っています。曹洞宗も、異文化の中で展開することにより、いままで気付かなかった側面が見えてくるようになると思います。その中で‘ジャスト曹洞宗’というのはなんなのかということも明らかになっていくのではないのでしょうか。そして、これこそ曹洞宗が異文化圏で育つことであり、‘異文化圏で育つ仏法’ではないのでしょうか。」と締めくくった。

この後、尼僧堂の御厚意により講堂を使用して懇親会が行われた。尼僧堂での懇親会にふさわしく、料理は精進料理「安江」の料理であり、参加者、大衆ともに楽しく親交を深めることができ、有意義なシンポジウムは終了した。

海外インフォメーション

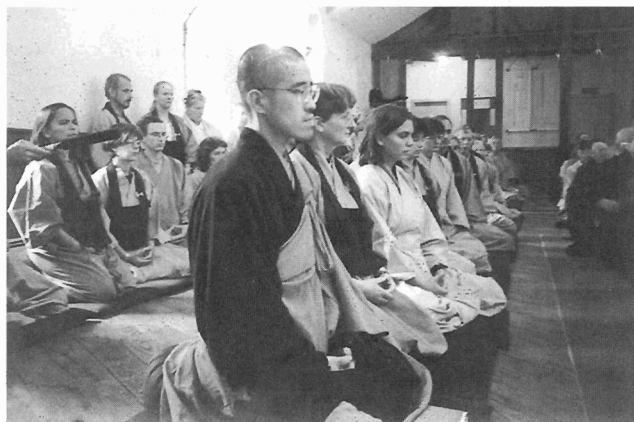
ニューヨーク

同じ空の下で

滋賀県覚伝寺副住職 宮前 憲生

1970年 滋賀県高島郡新旭町に生まれる
1992年 駒澤大学仏教学部卒業後、
大本山總持寺に上山
1996年 ニューヨーク州の禅マウンテン・
モネストリー・道真寺へ渡る

ここマウントトレンパーでの生活も早や1年半を迎えました。もう6月も下旬だというのにこちらの早朝は少々肌寒いです。もう間もなく午前4時になります。今朝も懐中電燈なしでは歩きづらい山道を下ってキャビン（山小屋）から禅堂へと向かいます。日の出まではもうしばらく時間がある為、地上に明りのないこの暁天には、両手で数えられる程の星達がまだ鮮明に瞬いています。玄関の重い扉を引いて外よりも暗いビルディングの中の電灯のスイッチを捜します。コーヒーマーカーのボタンを押して洗面を済ませ、出来上がった少し濃い目のコーヒースを飲み終わると、今朝もゆっくりと坐禅の仕度をします。この暁天（朝の坐禅）はとりわけ心地良いのです。止静鐘（坐禅の始まりを告げる鐘）を迎えると、ようやく空が白むでくるのに気が付きます。そして小鳥の歌声は、今朝も緑につつまれたこのモネストリー（僧堂）の境内にこだましています。



禅堂での小参 手前 宮前憲生師

申し遅れました。私、宮前憲生はここ禅マウンテン・モネストリー道真寺で、只今修行生活を送っております。こちらはニューヨークシティから車で2時間半程離れたニューヨーク州の北部のマウントトレンパーという所にあります。キャットスキルと

呼ばれる広大な公園に囲まれた自然豊かなこの土地では、この時期になると、山の緑が真っ青に映え、鹿やリス達が目の前を駆け回ります。そんな中、現在11名の修行僧と20名の参禅者が共に修行しています。ようやく私も日本語の通じないここでの生活にも慣れてきました。

「カウボーイ禅」こちらの堂頭和尚のジョン・大道・ローリー老師は、このアメリカの禅をニックネームでそう呼びまびます。その要素として、まず1つ目は、だれもが修行僧と同じ様に修行生活ができるということです。禅に興味を持ちここで修行生活を試みようと思えば、必ずしも僧侶になる必要はないのです。キリスト教文化の歴史を持つこの国の人達が禅堂で生活するというのはちょっと変わっている。と彼らは自分でそう言います。それならどうして彼らはここへ来ていると思いますか？「ここへ来るまで俺は生活に振り回され、物事を考えるゆとりがなかった。自分を見失なっていたと思う。そして、そんな生活から抜け出したかった。」また、「他の宗教のようにただ神を信じろと言われても納得できない。自分が坐禅をして、作務をして、自分を頼りに禅修行(Practice)というものをしてみたかった。」と多くの人達はそう言います。数日から数ヶ月、1年2年と人によって違いますが、多くの新しい仲間の単（席）が禅堂に加わり、又去っていきます。続いては、男女が共に生活することです。ここでは男女の分け隔てなく作務や役割が分担されます。僧侶の数が男女ほぼ同数で、女性の僧侶は日本語で言う「尼僧」という感覚はありません。こちらでは僧侶を「モナスティック」と呼びますが、男女共に同じモナスティックなのです。さらに、サンガ（僧伽）という集団の中で「男女を論ずることなかれ、これ仏道極妙の法則なり」といわれるように、僧侶であるなしに関わらず、皆が共に生活します。ある日、女性が重いゴミ袋を運んでいるのを見つけて、「私が変わりましょう。」と袋を持ってあげたのですが、「なぜ？」



首座法戦式

と聞かれて、「女性のあなたにこれは重すぎる。」と答えたところ、「そんな理由にならない。」と叱られてしまいました。「なぜ？」に対する私の答えが間違っていたのです。最後は、このモネストリーが開かれた環境にあるということです。毎週末には各種講座が開かれます。合気道・華道・カヌー・バードウォッチング等毎回アメリカ国内から講師が招かれたたくさんの受講者がここを訪れます。そして講座と共に作務や坐禅といったこのモネストリーのスケジュールもこなします。寺小屋を思わせる和やかな雰囲気でありながら、皆が真剣に坐禅にも励みます。また毎月末の攝心会にも30名から50名と多くの参加者があることから、このモネストリーを知る人がいかに多いかわかりかと思えます。ここを訪れる人は、アメリカ人のみならず、隣国カナダ・メキシコはもちろん、イギリス・フランス・ドイツ・ポーランド・スペイン・ベルギー・スイス・イスラエル・オーストラリア・ニュージーランドと色んな国の人達の色んな話が聞けて、まるで毎日が世界旅行です。

さて、暁天に引き続き朝のおつとめでは「摩訶般若波羅蜜多心経」を英訳で読経します。“Maha Prajuna Paramita heart Sutra 〜♪ Avalokiteshvara Bodhisattva 〜” 英語の発音でこの経典は木魚の軽快なリズムにより力強く読経されます。ステップを踏み体を振わせ、日本の般若心経とは少々異なりますが、日本人が中国の禅を自分達のものとしてきたように、この国にはこの国のやり方が必要なのだと私は考えます。ましてやここアメリカは太平洋を隔てた遠い国です。東シナ海を渡ってきた時より変化があって当然だと思います。しかし変えてはならない部分があります。例えば、食事に関して言えば、たっぷり盛って、食べきらなければ捨ててしまう習慣がこの国にはあるのでしょうか。毎食多くの食べ残しでキッチンのゴミ箱が満たされるのです。私達日本人も例外ではありません。「食は諸法の法なり。」(赴粥飯法) 今一度、釈尊や祖師方の教えを私達自身が顧みる必要があるのだと気付かされました。

このモネストリーの作務はこと更力仕事が多いのです。春には舗装、夏は芝刈り、秋は薪割り、冬は除雪といくらやっても先の見えない作務ばかりで、草にかぶれたり、生傷が絶えませんがそれらは私の最も好きな修行の一つなのです。

そして、夜坐(夜の坐禅)が終わると、暁天とは違い満天の星達がキャビンまでの夜道を照らしてくれます。この星達は2500年前も同じ様に釈尊の足元を照らしてきたのでしょうか。仏法はこの星達のごとくいつの世も、どんな場でも変わらずこの地を照らし続けてくれることでしょう。

サンフランシスコ

鈴木俊隆学会に 出席して思ったこと

愛知学院大学研究員 浅井 宣亮

‘鈴木俊隆老師の生きざま、時代、教え’という副題の付いた、鈴木俊隆学会が5月30～31日に、サティ仏教研究所とスタンフォード大学仏教研究所の共催により、スタンフォードで開催された。

鈴木俊隆師(1904～71)は、1959年に渡米し、サンフランシスコ桑港寺の6代目住職に就任した。桑港寺は元来、日系移民のための活動を行ってきた寺院であった。しかし鈴木師は白人に対する坐禅を中心とした禅布教に熱心であったため、日本的な仏教寺院を希望する日系人のメンバーとの摩擦が生じ、1969年にサンフランシスコ禅センターは桑港寺から独立することになった。現在、サンフランシスコ禅センターは北米曹洞宗系禅センターの中で、最も大きなセンターのひとつであり、その系列禅センターも多数存在する。

この会議では、学術研究者、禅センターの指導者をはじめ、多くの鈴木俊隆師の弟子達が発表をおこない、また、日本から招かれた鈴木包一師も、師匠であるとともに父でもある俊隆師の日本でのエピソードを披露した。



鈴木俊隆学会 於 サンフランシスコ

ところで、多くの発表を聞くにつれ、筆者にはある考えが浮かんできた。それは、サンフランシスコ禅センターとロサンゼルス禅センターとの相違である。ロサンゼルス禅センターは、故前角博雄師創設による禅センターであり、サンフランシスコ禅センターと同様に、そこから派生した多くの系列センター

海外インフォメーション

が存在し、北米で最も大きなセンターのひとつである。

このふたつの禅センターを比較したとき、サンフランシスコ禅センターではその系列禅センターが、サンフランシスコ近郊に多いが、ロサンゼルス禅センターでは系列禅センターが全米各地や他国に広がっている一方で、ロサンゼルス近郊には少ないということが指摘できる。この違いはどこからくるのだろうか。

この理由は、‘公案を使用するかしないか’という点にあると推測できる。鈴木師の指導方法は、公案を使用しない‘只管打坐’であったが、前角師の指導方法は只管打坐を中心にはおいているが、公案も使用するというものであった。このため、アメリカの禅センターガイドブックの分類では、サンフランシスコ禅センター系列は‘曹洞’に分類されているのに対し、ロサンゼルス禅センター系列は‘曹洞・臨済’という分類になっている。

アメリカ一般社会に最初に禅を広く紹介したのは鈴木大拙師であり、それは公案禅であった。このため、北米においては公案を求める声も高く、前角師の教化方法は北米での需要に応えるものであったといえる。このような状況のなかで、はじめて純粋な只管打坐を一般に広めたのが鈴木師であった。

公案を使用した場合、どこまで修行が進んでいるか明らかになるため、弟子達は互いに競争するライバルになりやすい。この傾向は、個人主義の浸透しているアメリカでは日本より強く出るのではないだろうか。一方、只管打坐の場合は、修行の進み方を示す明確なものさしががないため、弟子達はライバルというより、良き友人といった関係になりやすいのではないだろうか。そして鈴木師は初心の重要性を強調し、サンフランシスコ禅センターのシティーセンターを‘初心者のお寺’と名付けている。

前角師の高弟達にはカリスマ性をおびたような活動的なものが多く、全米、ヨーロッパで精力的な教化活動を展開している。一方、鈴木師の高弟達には、スマートで穏やかなものが多く、腰を落ち着けて布教活動を行っているものが多い。

また、公案を参究していくためには、師匠から直接指導を受けることが必要不可欠である。そのうえ当然、指導者は公案を終えている必要があり、なおかつ英語に堪能であることが要求される。そして、ひとりの師匠を選択する必要があるため、同地区に二人以上の指導者が並存していくことは難しい。これに対し、只管打坐の場合は、指導者は重要ではあるが、友人達で坐禅会を開いていくことも公案禅の場合より容易である。このため、中小の禅センター、グループが多く出来やすい。

このように、同じアメリカの、同じカリフォルニア州の、同じ曹洞宗の禅センターであっても、色々なスタイルのものが存在している。筆者はここで、どのようなスタイルが優れているのか論じるつもりはない。アメリカでの禅は今だ過渡期であり、多様な禅が存在している。しかし、多くの人がよりアメリカに適した禅を産み出していこうと真剣に努力している。そしてそのような禅を求める声も強い。我々にとって重要なことは、アメリカの現状を認識し、そのような声に耳を傾け、微力ながらも何か貢献できることはないかと絶えず気にかけ、実行していくことだろう。



世界宗教者 平和の祈りレポート

S Z I 事務局長 福島 伸悦

1 はじめに

第12回世界宗教者平和の祈りの集いが、聖エジディオの共同主催で8月30日から3日間にわたりルーマニアの首都ブカレストで開催された。

こうした会議というのは、現実認識に欠けたり、緊張感に欠けたり、お祭り騒ぎで終わってしまいがちだが、世界で起こっている諸問題を宗教がいかに解決できるのか各分科会で真剣に議論されたのには驚いた。

2 テーマ

テーマは「Peace is the Name of God」(平和は神の名の下で) - God, Humankind, Peoples (神・人間・民族) というものであった。

3 各分科会の内容

私が出席できたのは限られた会場(①生命の宣言-死刑に反対して ②諸宗教対話の歩み(問題と期待) ③祈り ④アジアの危機を苦しみに対する日本宗教の役割) だけだったので、取りあえずそこで話し合われた要旨だけを記したい。

(1)「生命の宣言-死刑に反対して」の部会

アメリカ・ルイジアナ州からゲストスピーカーとして招かれたシスター・ヘレンは、アメリカでは死刑反対のリーダーとして活躍され、なぜこの運動を

海外インフォメーション



「生命の宣言 - 死刑に反対して-」の部会

しているのかお話しした。1984年、彼女は死刑因に頼まれ、死刑の瞬間を見た。その時から死刑に対して納得ができなかった。彼女が作った「Dead Man Walking」という映画は、よく知られているということだが、貧しいものの観点から死をどう考えるかを問題提起しているという。死刑因がどんな犯罪をしたかでなく、内面・宗教の根本にあるもの、許し、人間の尊厳をいかに尊重するかである。敵は抹殺しなければならないという考え方は宗教と反対するものである。本来の宗教というのは、人間の深いところで触れなければならない。今、アメリカではM2000という文化人、宗教家、市民の間で死刑反対の運動が盛り上がっている。そして、署名運動も展開している。殺人は人間の心の中からおきる。だから、他人の生命、人間の尊厳を小さいときから教育することが必要。死刑は人間の敗北であり、宗教の敗北である。そして、神が命を与えて下さったことへの冒瀆であると。

また、1952年死刑因の教誨師となって10年目に二人の冤罪死刑因の訴えに驚き、再審運動を続けると共に、死刑廃止運動を行っている古川泰龍師の発表は、多くの人々に感銘を与えた。20世紀は『虐殺の世紀』であると明言し、人間一人の生命は全地球よりも重いと主張。そして、憲法9条で戦争放棄をうたっているにもかかわらず、憲法31条では国家社会の正義維持のため死刑は存続するという矛盾を指摘し、人間の尊厳と殺人の問題はどうなっているのか問題提起された。仏の大慈悲はすべての人々に安らかな死、涅槃を与えたいのである。殺人はその安らかな死、涅槃を奪うものであると。マザー・テレサも「あの罪を犯したのも、神にとってかけがえのない人」と言っている。戦争・死刑すべての殺人は20世紀を持って終焉としなければならないと結んだ。

聖エディジオ共同体・マリオ・マラジッティ氏は、宗教に関わる関わらずに、人間としての権利は国連人権宣言でも認められているもので、死刑がいかに

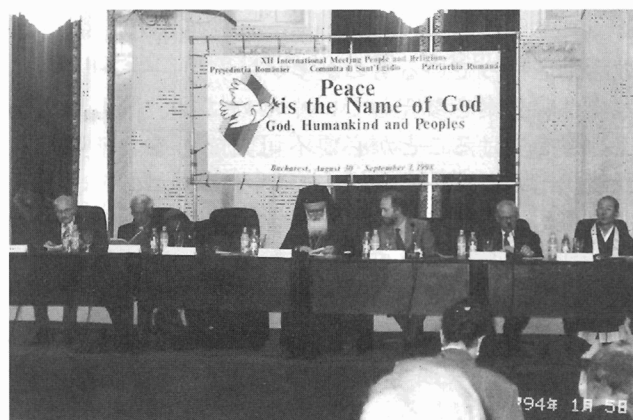
悪いものか強調。そして、人間を殺すことは神を殺すことになる。キリスト教徒として人間が神から与えられた命を絶つと言うことは、人間が神になると言うことで、絶対にあり得ない。

イギリスのジャーナリスト・ゲリー・オコーネル氏はジャーナリストの立場で、中国などで行われてきた死刑因からの臓器移植の事実を指摘し、人間の生命の尊厳について述べた。

(2)「諸宗教対話の歩み(問題と期待)」の部会

バチカン諸宗教対話評議委員会長官・アリンゼ枢機卿は、お互いの宗教が対話を通して認め合うことが大事であることを強調。世界各地で起こっている地域紛争、家族の問題、女性・子供たちの人権、対人地雷の犠牲者、民族問題、難民の問題、生命倫理の問題、暴力・テロリズムなどの諸問題が解決され、世界人類が平和に暮らせることが世界人類の願いであるはずである。たとえ宗教の違いがあっても、世界の宗教者たちが理想に向かって手を携えていくことが大事なことである。宗教の違いは、それぞれの人々を離すものでなくつなぐもの、結びつけるものである。目先の利益に目がくらむことなく真実を求める生き方を示していかなければいけない。神の名の下に暴力が行われ、平和への水を差すものは告発していかなければならない。宗教は暴力を排除することから始めなければならない。自分たちの城に閉じこもって、偏った考え方を押しつけるのは正しいあり方ではないと。

イスラエル・ビジネス協会会長・シグムンド・ステンベルグ氏は、宗教が世界平和のために何故、力を合わせないのか疑問に思う。経済界でも対話をしたい。対話と良いコミュニケーション、つまり他人の言葉に耳を傾けること。宗教家も宗教以外の世界にも目を向けてほしい。ビジネスの世界でも共同・共存を基本に、Responsibility(責任)、Relation(関係)、Response(返答)の3原則を重視している。



「諸宗教対話の歩み」の部会

海外インフォメーション

一人一人の変革なしに世界は変わらない。グローバル・コミュニケーションの時代にお互い協力して行かなくてはならないと。

フランスのアラン・コルディエ氏は、宗教間の対話の中でそれぞれの自由、尊厳、特殊性を尊重することが大切であることを強調された。そのためには表面的なものでなく、それぞれの宗教が持っている根の部分の部分を学ばなければならない。地球化の時代、対話を通して現在直面している問題を共通認識として宗教家は対処していかなければならないと。

スウェーデンのルーテル教会・ビヨン・ファルス・テド司教は、「真理はあなたを自由にする」「すべての人々が幸せになることを望んでいる」と言う聖書の中の一説を紹介。グローバルイゼーションということが言われるが伝統的なものがこれによって危機になることも考え合わせなければならないと。

天台宗国際平和宗教協力協会顧問（元天台宗宗務総長）・杉谷義純師は、長い人類の歴史の中で宗教は、それぞれの宗教の持つ絶対的真理を強調するあまり、非寛容を生み出し、結果的に対立を煽ることになってしまった。自己の宗教を至上とする改宗主義が普遍的な正義と混同され、かつて歴史上いかに多くの悲劇を生みだしてきたか私たちは銘記しなければならない。お互いの宗教の優劣を争うのではなく、対話を通じてお互いを理解し、共通点を見いだそうとする努力が必要であると宗教対話とその継続性の意義を説かれた。

ヨルダンのカミール・アルシャリフ師は、ハッサン国王がこの平和の祈りに大変力を注がれていることを述べ、平和に対してイスラム教以外の人々とどのように対話をして行くべきか、コーランを通して考えを述べられた。相手の考え方の違いを認め、例外になくすべての人々と対話をしなければならない。そして、より良きユダヤ教徒にならなければならない。平和は神の別名である。平和は安心であり、愛であると。



「アジアの危機と苦しみに対する日本宗教の役割」の部会

聖エデジオ共同体のアレッサンドロ・ズッカリ氏は、いかなる理由があるにせよ戦争は避けなければならない。これらの紛争の多くが宗教戦争と呼ばれていることは大変残念に思うと同時に、大きな責任を感じる。平和な世界を構築するために宗教対話の重要性を説かれた。

（３）「アジアの危機と苦しみに対する日本宗教の役割」の部会

大本山永平寺監院・南沢道人老師の発表の要旨だけ記す。（他の部会にも出席したため、この部会は南沢監院老師の発表だけ拝聴した為）

アジアの一局地的に顕在している状況は、20世紀を通じて形成された世界規模の危機の構造に由来するとし、人間にとっての真の危機とは、私たちがより善く生きていこうという志を失った時のことであり、真に恐るべき苦しみとは、自己が他者に対する共感を失い、孤立し利己的になることなのである。そして、道元禪師がお示し下さった「菩提心を発すというはおのれ未だ渡らざる先に一切衆生を渡さんと発願しいとなむなり」のお言葉を引用され、生命の尊さと価値の意味を求め、他者への共感を育てることをあらゆる具体的な行動を通じて人々に訴えていく必要性があることを説かれた。

（４）「祈り」の部会

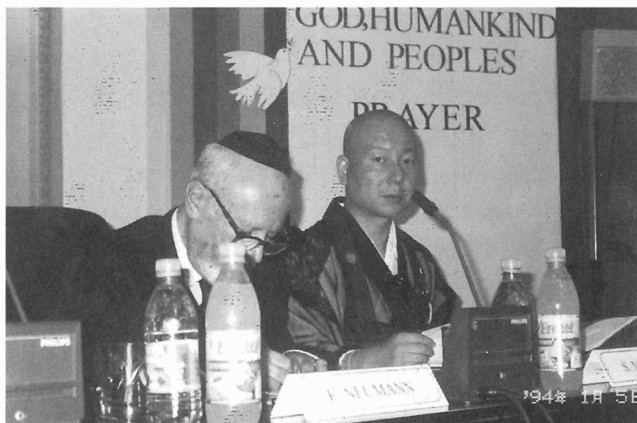
モロッコのモハメド・アミン・スマイリ教授は、どんな時代（たとえ情報化社会）であっても祈りの本質は変わらないし、絶対変わってはならない。しかし、人間と自然との関係は違ってきて、変化を受けているように思われる。そこで大事なことは、①神との関係を絶対保つ②自己の内的な責任感を持つことを強調された。

ルーマニアのメナヘム・ハコヘン・ユダヤ教ラビは、祈りは一人一人の神の栄光のために行われ、毎日の生活が祈りになっていかなければならないと。そして、人間と神との約束の中で、信仰に基づいた生活することによって、人間の調和を作っていくものであると。

ルーマニアのバージル・ベルシア司教は、祈りは私たちの心に祈りたいという心を起こさせることである。沈黙と調和の中で祈る。沈黙は言葉にならないが、救いにつながるものである。だから一人で静かに沈黙のうちに祈ることが大切であり、神に向かって祈るとき現実になる。利己主義をなくし祈ると、神は一人一人に言葉をかけてくれると。

峯岸正典師は、禅宗での「回向」は「一連の祈りのことば」であり、禅での祈りである。お経をお唱えすることは、「仏陀の教えに戻ろう」とすることであり、回向は、その功德を自分だけいただくのでは

海外インフォメーション



「祈り」の部会

く他に振り向けることである。そして、坐禅は自らを現事実としての真如実際・仏陀に合わせ・あずけていく祈り、「行」であり、言葉と対象のない禅の具体的な祈りである。つまりそれは自分に都合良く解釈することから離れる祈りである。そして、神様が存在するのかわからないのか、神様とは一体どんな方なのかといった議論を避け、神様がこの世に最も望まれることをこの身体でもって感じ実行することの大切さを説かれた。

聖エディジョ共同体のビンセンゾ・パーリア神父は、弱さあるがゆえに祈りがあり、人間と神との関係の中で、神なくして存在できないのだから謙虚にならなければならないと。

そして、特別にフロアーからメッカから来られた世界イスラム教会長が挨拶された。その中で、祈りは、人と人、神と人をかたく結びつけるものである。しかし、欲望があるから神から遠ざかってしまうのだと。どの宗教も危険を含んでいるが、イスラム教の本当の姿が特定の人たちによって折り曲げられているのは大変残念なことで、原点に戻ってみたいべきであるとメッセージを残された。

4 まとめ

この大会に参加して、私なりに感じたことをいくつか述べ、まとめとしたい。

まず第一に、仏教の社会に対しての宗教的主体性がいかに欠如しているのか痛切に感じた。日本では政教分離を唱え、特に既成宗教教団は表面的には政治面に関してはなにも語らない姿勢を固持している。しかし、「平和」「戦争」「人権」「環境」の問題の一つとっても政治的レベルでの問題解決が必要不可欠である。宗教が現代の諸問題に対して積極的に関わっていく以上、政治に対してより一層の問題提起をしていくべきだろう。そして、仏教者は「現代の危機」に主体性を持って立ち向かっていかなければいけない。だから政治と宗教はお互いに自立し、相対立し、

矛盾することなく共存していく道を模索しなければならないと思う。

第二に、異文化理解の必要性を実感した。宗教とか民族、言葉の違い、衣食住などすべて文化である。それぞれの文化の違いによって解決しない問題があったりするものである。たとえばパレスチナ問題一つとってもアラブ系イスラム民族とユダヤ教のイスラム人との間の文化の違いが争いの火種となったりもする。人間の生き方、思考、価値観など違って当たり前のはずである。だから、共通に理解できる部分とその文化特有のものとして理解しなければならないものがあるということをもっと前提として考えなくてはならない。特に宗教的な部分では、我々が考えている理屈とか常識が通じない世界があるということである。異文化に対する無関心・無知はいかに大きな誤解とか差別を生むかよくよく考えなければならない。

第三に、宗教対話の必要性である。異文化理解をするためにはコミュニケーションは大事なことであることは言うまでもない。宗教の究極の目標は全人類の幸福の実現である。平和でない争いのある世界では、人々は幸福にはなれない。一つの宗教が他の宗教を排他的に攻撃することを避け、すべての宗教が手を携えて協力することが必要である。曹洞宗も教団をあげて積極的に他宗教間の宗教協力と対話の施策を考えていただきたいものである。



ファイナル・セレモニー 於 大学広場前

ファイナルセレモニーはブカレスト市内の大学広場特設会場で行われた。セレモニーの前には各宗教ごとに市内の会場で法要を行い、それぞれ平和の祈りの行進を行い、会場に向かった。会場には3万人のブカレスト市民も集まり共に世界平和の実現に向けて、「平和宣言」を発表した。アメリカ・クリントン大統領、ヨハネ・パウロ・ローマ法王などからのメッセージ、ルーマニア大統領、主催者側の挨拶等の後、各宗教者の代表によるキャンドルの点火でファイナルセレモニーを終えた。

海外インフォメーション

ドイツ

大悲山普門寺便り

普門寺堂長 中川 正寿

謹啓 このたび当山において、去る9月5日来欧中の南沢道人監院老師ご一行にお越し頂いて、本堂落慶の祝典を執り行なって頂きました。あいにく雨模様の日となりましたが、接心参加者を中心に約70人程が本堂に集まりました。

本堂は別館にあった屋内プールを改造したもので



98平方メートル。別館の2階は部屋数20で宿泊者用、1階はいま工事中で完成すれば、南の庭に面した食堂兼リビングホール、レセプション、台所となります。1階2階それぞれ320平方メートル、合わせて640平方メートル。この工事には上下水配管取換え、暖房施設、各部屋についているトイレ洗面所シャワー室、まったく新しい台所施設の設置などが含まれています。10月末までには一応改修工事の完成を見る予定です。

そして11月よりは、いよいよ普門寺第1回の安居修行に入るべく志を新たにしております。

ただ今常住の修行者は私を入れて男ばかりの4人、堂頭、副寺、典座、直歳を勤めております。

この別館の隣にあり、将来は衆寮、客室、第2本堂、図書室、作業室を提供する本館は、1階2階とで480平方メートルありますが、これまた大変老朽しており、屋内各所に雨漏りがあり、まずは早急に屋根の改修を必要としています。しかし、工事資金の目途はなく、引き続き各方面からの資金援助を仰いでいます。

申すまでもなく、このたび私たちが普門寺本堂落慶の祝儀を執り行ない得ました事は、ひとえに絶大なるご支援を賜りました宮崎奕保不老閣猊下を初めとして、全国各地からご浄財を賜りました皆様方のご支援に依るものであります。普門寺山内一同、ならびに有縁の参禅者一同、こころより日本からのご支援に深謝申上ます。



「梵刹の現成を願せんにも、人情をめぐらすとなかれ、仏法の行持を堅固にすべきなり。修練ありて堂閣なきは古仏の道場なり。露地樹下の風とほくきこゆるなり。この处在がなく結界となる。まさに一人の行持あれば、諸仏の道場につたはるべきなり。末世の愚人、いたづらに堂閣の結構につかることなかれ。仏祖いまだ堂閣をねがはず。自己の眼目いまだあきらめず、いたづらに殿堂精藍を結構する、またく諸仏に仏宇を供養せんとにはあらず、おのれが名利の屈宅とせんがためなり。」(行持の巻、下)

不肖、学なく行疎かなる身にして、高祖道元禪師のこのみ教えに導かれて長年励んで参りましたが、2年前在独18年目にしてこの任に当たりました。今後とも何卒より一層、ご法愛ご指導を賜り、ご支援いただけますように伏してお願い申し上げます。

合掌

* 寄付金振り込み先 *

日本郵便振替口座

加入者名 「ドイツ大悲山普門寺」

口座番号 00940-8-310590

日本連絡先 興聖院 青野俊孝

〒425-0068 静岡県焼津市中新田1036-1

電話 054-624-0643

特別寄稿

互いに学びあえたら

静岡県 宗徳院寺族 松永 道代

今春、東京中野の宗清寺飯島先生のご好意により、寺の梅花講員10名とで、ハワイの諸寺院を巡る機会を得ました。単なる観光旅行ではなく、移民としてハワイに渡った日系人の心に触れて欲しいと願って出発しました。平均年齢70歳を越えるという一行は、飯島先生と息子の運転するレンタカー2台でハワイ、カウアイ、オアフ諸島を廻りました。

ハワイ島ヒロの大正寺では、開教師の吉田先生ご夫妻をはじめ婦人会の方々から心暖まる歓迎を受けました。昼食接待のフレッシュなフルーツジュースのおいしさ、スパムという缶詰のハムを使ったのり巻風の日本的なおにぎりの味に、一同本当に感激してしまいました。吉田先生のお子さんが、婦人会の方々に安心して抱かれている姿を目にして、思わず一瞬、30年も前の自分の姿と重ね合わせていました。

コナの大福寺では、広い敷地内のコーヒー園を見せていただきました。檀務のかたわら、コーヒーの収穫を奥様が手がけていらっしゃるとのこと。境内で子供たちと和太鼓の練習の前の準備運動をなさっている、はつらつとした奥様の姿が印象的でした。

カウアイ島では、禅宗寺開教師の三好先生ご夫妻が、リエフ空港に出迎えてくださいました。この島は30年前、私たち家族が7年ほど住んでいた所です。子供たちもここで生まれました。すっかり面変わりしたリエフ空港には昔の面影はありませんでしたが、空港から禅宗寺までの山や海は懐かしく私を迎えてくれました。禅宗寺では、檀家の方々が夕食の準備をして待っていて下さいました。みなさんすっかり年を取っておられましたが、それでもやっぱり元気なお姿でした。本堂に残されたハリケーンの爪あと、丹羽禅師が建てられた立派な観音様、ここ30年の三好先生の苦労話などをお聞かせ頂きました。大観音の横の菩提樹の太木は昔私が小さな鉢植えで育てていたものだとのこと。カウアイはやはり私の第二の故郷でした。言葉の違いや、世代の交代という困難を乗り越えて、寺を維持し続けていらっしゃる三好先生ご夫妻や、檀家の方々の弛まぬ努力を見せて頂きました。

私はここで、3回流産を繰り返し、二人の子供を生みました。3人の水子の供養に四国の正山という石工師に頼んでお地蔵様を彫ってもらい、微光水子、道光水子という2人の水子の戒名をとって微道地蔵

と名付け、禅宗寺に祀りました。今回もし可能であれば、そのお地蔵様を日本へ連れて帰りたいというのが、私の旅の密かな目的でした。三好先生に願いを叶えて頂き、30年の間大切に祀って頂いていた微道地蔵を、我が子を抱くようにして日本に持ち帰りました。

4月18日、19日に、第33回ハワイ曹洞宗連合婦人会大会がパシフィック・ビーチ・ホテルで開かれており、ハワイの開教師の方々のご好意により、私たち一行も18日の晚餐会に招かれました。女性はムーム、男性はアロハシャツ、参加者のほとんどが日系二世三世で、進行は英語でした。アメリカ人の尼僧、ベナージュ大圓師のお説教「静かなところ」も、もちろん英語でした。英語はほとんど解らない私たちでしたが、ベナージュ師の静かに語りかける口調から「静かなところ」を感じ取れたような気がしたと、後でみんなで話し合いました。三々五々会員の間に席を設けていただいた晚餐会の暖かい雰囲気の中で、楽しい得難いひとときを過ごすことができました。余興のプログラムに私たちも参加させていただき、四国のお遍路さんの白衣を着て「鈴の音讃歌」を踊りました。

その後、輪になってみんなで「平和音頭」を踊りました。「平和音頭」は、曹洞宗が戦後教化の一環として力を入れて広めた、賀来琢磨先生が振り付けされた盆踊りです。戦後の日本のお寺に、明るさをもたらしてくれた盆踊りでした。私の母も、当時あちらこちらへ踊りを教えにいらっしゃいました。ドンドン、ドンカッカカと、音楽が鳴り出せば手足が動





くほどに私も体で覚えていました。4月9日に母を亡くし、14日に葬儀を済ませたばかりでハワイへ旅だった私は、踊る手や足に母を感じながら、無理してもハワイに来てよかったと心から思い、感謝しました。

晩餐会のプログラムの終わりは、キャンドルライト・サービスでした。一人一人に手渡されたりうそくに火が灯されると、アイエア太平寺寺族により、「灯火とともに」という詩が朗読されました。この詩のオリジナルは、30数年前、第3回ハワイ曹洞宗連合婦人会アイエア大会の折に私が書いたものです。それを30年も大切にしてくれてくれたことに、面映ゆさと厳粛な感謝に駆られました。

ハワイの曹洞宗連合婦人会は、檀信徒が主体となって組織され活動していて、寺族はオブザーバーとしての立場にいます。今回参加させて頂いて、日本の曹洞宗連合婦人会にとって学ぶべきことがたくさんあるように思いました。お互いに助け合い、学び合っていけたらと思い、ワヒアワの駒形先生にその旨お話ししましたら、会の構成上からも精神的な面からも一概に賛成しかねることのようでした。日本の婦人会からの経済的な援助を受けて、結局内容的に駄目になってしまった他宗の婦人会の例がハワイにあるとのこと。駒形先生は、ストレートに、「ハワイでのお寺と会員のあり方を知りたかったら、7月のお盆祭りの頃においでになって、手伝って下さい。そうすれば、解ってもらえることがたくさんあります。」とおっしゃっていました。

海を隔てた曹洞宗の婦人会が、それぞれの独立性を保ちながら交流できる道がきっとどこかにあるはずだと私には思えてならないのです。

※この記事は曹洞宗婦人会会報「きやら」38号より転載

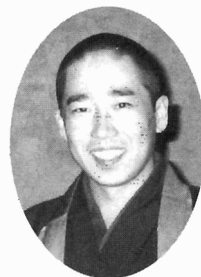
SZIだより

SZI活動日誌

(1998年1月1日～10月31日)

- 1月12日 役員会 池袋・祥雲寺
- 2月 5日 愛知尼僧堂との打合せ会 愛知専門尼僧堂
- 2月16日 総会・講演会 東京グランドホテル
「禅修行を通して得られたもの…両鏡相照」
- 3月25日～30日 愛知第一宗務所主催海外徒弟研修派遣
- 5月 6日 役員会 宗務庁第2ソートービル会議室
- 5月15日～22日 聖護寺国際安居通訳派遣
- 5月19日 愛知尼僧堂との打合せ会 愛知専門尼僧堂
- 5月20日 会報12号発行
- 6月10日～20日 聖護寺国際安居通訳派遣
- 6月15日～16日 ワークショップ 愛知専門尼僧堂
ー海外布教シンポジウムー
仏教東漸「異文化圏で育つ仏法」
- 6月19日 事務局会 宗務庁会議室
- 7月 6日 役員会 宗務庁第2ソートービル会議室
- 7月30日 事務局会 東京グランドホテル
- 8月28日～9月7日 宗教者平和の祈り派遣
- 9月30日 国際課との打合せ会 宗務庁仏間
- 10月19日 事務局会 池袋・祥雲寺
- 10月26日～27日 ワークショップ
福島県猪苗代 リステル猪苗代
ー葉貫・古溪婦国報告会&
SF宗教連盟との交換研修会ー

大谷有為師 マウイ満徳寺開教師として赴任



東京都新宿区四谷・長泰寺副住職・大谷有為師は葉貫師の後任開教師としてマウイ満徳寺に赴任した。大谷師は、SZI事務局員として熊本・聖護寺国際安居、マウイ満徳寺90周年、ロサンゼルス禅宗寺75周年、世界宗教者平和の祈り等、積極的に参加され、会の発展

に多大な貢献をされた。インターネット上で活動状況を送ってくださっているの、SZIのホームページを是非ご覧ください。今後のご活躍を祈念いたします。

黒田武志師国際栄誉賞受賞



横浜・善光寺住職の黒田武志師はスリランカのサラナンダ財団から「栄誉賞」を授与された。この財団は、スリランカで長年、教育・文化・宗教活動を展開した高僧・ウドゥヌワラ・サラナンダ・セロの業績を世に広めるため創設された政府公認の慈善団体である。毎年、若い僧侶や社会活動家、学者、仏教の外護に尽くした人々に与えられ、その業績を称えたものである。黒田師の主宰する横浜善光寺留学僧育英会では、すでに88人の留学僧を支援し、長年にわたるその育英事業の功績が評価されたものである。授賞式は6月20日、シンハラ王国の首都だったクルネーガラ市の公会堂で行われ、千人を超える僧侶や信徒、並びに国の要人たちが列席した。

葉貫成悟師・古溪理哉師 海外開教師辞任帰国



葉貫成悟師はハワイ・マウイ島満徳寺主任開教師として1993年2月赴任し、5年間の布教生活を終え、1998年7月帰国された。特に、満徳寺90周年の大事業を成就されたことは葉貫師の尽力によるものである。現在は福島県安達郡本宮町の石雲寺副住職として活動されておられる。



古溪理哉師はロサンゼルス禅宗寺開教師として1995年4月赴任し、1997年には北米開教センター発足に伴い書記として所長を補佐した。しかし、お師匠様の遷化で余儀なく自坊に戻らなければならなくなり、1998年7月をもって辞任帰国

する。現在は、群馬県碓氷郡井田町の雲門寺住職として、活躍されている。

なお、この夏帰国したばかりのホットなお二人に、ハワイ・北アメリカ各開教地における海外布教伝道

の現状と今後の展開など、それぞれの貴重な体験を10月26日（月）、SZI秋のワークショップで報告していただきました。このレポートは次回の会報でお知らせします。

通信欄

＊ 原田道一師より

ブッダガヤ世界平和セレモニー参加と インド仏跡巡拝の旅のお知らせ

期 日 1999年1月22日(金)～2月1日(月) 11日間

インド仏教のラマ僧ら約1万人が集まり、世界平和を祈願するセレモニーが毎年行われています。今企画では「ブッダガヤ世界平和セレモニー」に日本からの正式な代表として参加いたします。チベット仏教の高僧たちが一同に集い、祈りが捧げられる場はほかにはありません。仏教徒にとっても最も重要な聖地に数万人の僧による心からの祈りは、すべての衆生にとっての功德となることでしょう。

またその他に、仏陀初転法輪の地サルナートに参拝、聖地ベナレスに流れる悠久のガンジス川の沐浴風景見学、そしてネパール首都・カトマンズに多く集まる数々のチベット仏教寺院を参拝し、高僧からの法話を拝聴いたします。一人でも多くの方が深い仏縁を得られますよう、ご参加を心から願っています。

問い合わせ 岐阜県・正宗寺 原田道一

TEL.0577-78-1080

＊ 山端法玄師より

本当にいつもありがとうございます。おかげさまで、無事ロンドン・マドリード・グラナダと辿り、今ようやくシェラネバダの奥の慈光庵に着きました。参加する道友たちは、英・エール・スイス・オランダ・などから凡そ60人がシェラーフをかついだりしてやっています。9月初旬までここで坐り、それからポルトガルへ移り、いくつかの会場を廻って、帰りに又ロンドンで旧友たちと集会し、帰山は9月19日になってまいります。また、呉々もよろしく願いいたします。

合掌 8月22日

＊ 森山大行師より

謹啓 平素は、当会の目的…禅仏教の国際的開発とその活動…海外禅堂の設立・展開に深いご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、新世紀2000年は国際禅交流センター・大菩薩僧堂の開単20周年を迎え、その記念事業としてパリ禅道場の設立を発願いたしました。(中略) 皆様のご協力とご参画をご期待申し上げる次第でございます。

合掌

＊ 藤田一照師より



拝啓 御無沙汰しております。

ニューイングランドは今、晩秋を迎えています。日中はまだ温かいものの朝晩はかなり冷え込みます。色づいた葉が地面に落ちて絨毯のようです。周りには裸の木々が目立ってきました。お元気でお過ごしでしょうか。

ヴァレー禅堂創建以来20年以上にわたって使用してきた井戸がとうとう「死んで」しまいました。

この井戸は予算の関係で十分な深さまで掘ることができず、当初より毎年夏の乾期には枯れ気味になっていました。私は1987年夏にここに来てから、普段から極力節水に心掛け、水がでない時期には隣家にもらい水やもらい湯をし、洗濯は町のコインランドリーでおこない、用便は外に設置した簡易便所ですするというやり方でなんとか乗り切ってきました。それは、水の大切さを実感するまたとない修行の機会でしたし、幸いに昨年までは秋になればどうにか給水量がもちなおしていましたから、井戸をどうしようという考えはありませんでした。それに費用も結構高いと聞いていたからです。

ところが、今年は十月に入っても一向に回復の兆しが見られず、10月19日からは水が一滴も出なくなりました。それで仕方なく井戸を掘る専門家に来てもらって対策を相談しました。彼らの言うにはハイドロ・フラックという油田で使われている方法を試してみてもどうかということでした。それは高圧の水を井戸の穴に送り込んで内壁にヒビを入れて地下水の供給を増量させるという技術です。それには約2500ドルかかるということでしたので、すぐアメリカ国内にいる禅堂に縁のある方々に資金援助をお願いする手紙を出しました。その位の金額ならなんとかなるだろうと思ったからです。しかしそのすぐ後に、この井戸には水を溜める力がなく、ハイドロ・フラックをするのは無駄だということがわかりました。井戸の穴のどこから水が漏れだしているのだそうです。「この井戸はもう死んでしまっているから、新しい井戸をどこかに掘るしかないですね。」と言われました。

それで10月26日に、ダウザー（地下水の位置を探知できる人）に来てもらって、新しい井戸をどこに掘るべきかを調べてもらいました。彼が言うには「この禅堂は非常に乾燥した丘の上に建っていますね。ほとんど水の流れが感じられません。」とのことでした。それでもかろうじて一か所だけ「ここなら多分いけるだろう。」というところを見つけてくれました。

費用は井戸の深さと建物までの距離などによって決まるので実際に掘ってみなければわかりませんが、ダウザーの話では350フィート（約105メートル）位は掘らなくてはならないようですし（「井戸掘りはギャンブルみたいなどころがある。掘っても出てこないことだってある。」とのこと）。候補地点は建物から少し距離があります。また水を吸い上げるポンプと貯水タンクも老朽化しているのでこの際に新しいものに取り替えた方が良いといわれました。大体の見積もりでは井戸掘り、配管工事、ポンプ、貯水タンクなど総額で約一万ドルくらいになると覚悟しておいたほうがよさそうです。

こういう事情で当初の予算2500ドルをはるかに上回るビッグ・プロジェクトになってしまいましたが、水がないことには禅堂生活が成り立ちません。長い冬が来る前に早急に作業に取りかかりたいと思っています。しかし情けないことですが、貧しい禅堂の手持ちの資金ではいかんともしがたく、アメリカ、日本にいる有縁の方々からの浄財に助けられなければ実現はとてもおぼつかない状態です。

長びく不況にあえぐ日本に住む方にこういう手紙をお送りするのは心苦しい限りですが、どうぞ窮状をおくみとりの上よろしくご援助の程お願いいたしたく、筆をとりました。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

合掌

送金は次のいずれかでお願いします。

- 1、銀行を通してUNITED SAVINGS BANK (GREENFIELD.MA 01301)口座番号11-36 072742 VALLEY ZENDO へ（←手数料がかかる）
- 2、郵便局（本局）で U.Sマネーオーダーにして禅堂へ郵送（←手数料が安い）
- 3、住友銀行浅草支店 普通預金口座番号738776（藤田尚美）に振り込む

寄付者・会費納入者名簿

■SZI特別寄付

ありがとうございました。

(会費分を除く、敬称略・順不同)

1998年2月27日～9月2日まで

秋田新隆	静岡県	法幢寺	1万円
市川智彬	神奈川県	興禅寺	3万円
伊藤禅龍	北海道	法徳寺	5千円
亀野哲也	神奈川県	貞昌院	1万円
木谷雅樹	東京都	瑞圓寺	1万円
小島孝尋	宮城県	大雄寺	1万円
佐藤正道	鳥取県	森福寺	2万円
慈眼寺	埼玉県		1万円
寺澤素心	島田市	法林寺	1万円
東昌寺	埼玉県		1万円
鳥澤俊寛	神奈川県	泉秋寺	1万円
中村道雄	名古屋市	威音院	1万円
野原央全	静岡県	大慈悲院	1万円
福嶋幸隆	東京都	長泉寺	9千円
細川正善	福島県	天徳寺	1万円
宮田春光	愛知県	春江院	1万円
山喜光明	埼玉県	金剛寺	1万円
山本現雄	京都府	正誓寺	3万円

大場満洋	埼玉県	
大橋幸雄	埼玉県	
大森篤史	埼玉県	
大八木春邦	山形県	
岡島博司	愛知県	
小原智司	愛知県	
柿沼仁法	埼玉県	
加藤孝正	静岡県	
金平祖隆	福島県	
加納博人	愛知県	
亀野哲也	神奈川県	
岸本孝道	福井県	
北浦孝雄	兵庫県	
木谷雅樹	東京都	
吉川弘眼	東京都	
木村恭三	愛知県	
木村誠治	千葉県	
来馬規雄	東京都	
来馬宗憲	東京都	
黒田俊雄	栃木県	
慶林寺	神奈川県	
建咲院	山口県	
小池彭道	長野県	
小泉悟道	埼玉県	
高福寺	栃木県	
穀蔵禅戒	北海道	
小島孝尋	宮城県	
小島宗光	佐賀県	
児玉重夫	千葉市	
斉藤征良	埼玉県	
佐伯逸雄	愛媛県	
佐瀬道淳	島根県	
佐藤正道	鳥取県	
佐藤黙童	東京都	
佐藤陸雄	岩手県	
慈眼寺	埼玉県	
柴田隆全	愛知県	
清水仁恵	埼玉県	
俊朝寺	東京都	
神龍寺	愛知県	
瑞雲院	栃木県	
関光禅	千葉県	
石夢工房	東京都	
全応寺	千葉県	
高沢素由	北海道	
高橋秀雄	埼玉県	
高橋鉄弦	兵庫県	
滝澤和夫	東京都	
館源峯	東京都	
田中芳周	東京都	
田中俊光	名古屋	

長源寺	山梨県	
長福寺	岩手県	
千代田文隆	埼玉県	
寺澤素心	島田市	
土居孝童	愛媛県	
洞雲院	知多郡	
東昌寺	埼玉県	
鳥澤俊寛	神奈川県	
中道顕雄	大分県	
中村道雄	名古屋市	
奈良康明	東京都	
成田大航	京都府	
西沢応人	東京都	
野口弘龍	台東区	
野原央全	静岡県	
篠本宏昌	東京都	
花和明雄	茨城県	
林辰哉	神奈川県	
原田道一	岐阜県	
原山浩昭	長野県	
引田弘道	愛知県	
日比野道英	岡崎市	
平子興正	群馬県	
福島BS観光	福島県	
福田恵文	東京都	
藤井和彦	東京都	
藤沢好文	長野県	
北条正興	茨城県	
細川正善	福島県	
細川皓代	京都市	
堀部明宏	愛知県	
前田泰明	台東区	
松本誠諦	富山県	
峯岸正典	群馬県	
宮田春光	愛知県	
棟方清允	秋田県	
村上直文	北海道	
安江英雄	名古屋市	
安田剛一	東京都	
安野正樹	埼玉県	
山喜光明	埼玉県	
山口義博	青森県	
山口淳一	群馬県	
山本現雄	京都府	
山本慧彊	東京都	
横山敏明	神奈川県	
吉田公雄	岩手県	
龍潭寺	名古屋市	
渡辺孝彦	神奈川県	
渡辺紫山	秋田県	
渡辺禅悦	山形県	

祥雲寺
法林寺
瑞林寺
泉秋寺
寿福寺
威音院
法清寺
円覚寺
祥雲寺
福壽院
大慈悲院
泰宗寺
龍心寺
延命寺
正宗寺
苔翁寺
愛知学院大学
渭信寺
桂昌寺
東禅寺
竜門寺
観音寺
龍泉院
天徳寺
宗仙寺
曹流寺
出山寺
自得寺
長楽寺
春江院
大川寺
禅昌寺
(株)安江
永泉寺
建福寺
金剛寺
保福寺
オモロ
正誓寺
世田谷学園
西有寺
祇陀寺
種徳寺
松庵寺
清林寺

■SZI会費納入者

新規会員並びに会員ご継続

ありがとうございました。

(敬称略・順不同)

1998年2月27日～9月2日まで

青木哲夫	東京都	妙清寺
赤間直道	宮城県	龍角寺
秋 央文	東京都	
秋田新隆	静岡県	法幢寺
秋田県宗務所	秋田市	
荒井禮一	埼玉県	昌福寺
池本宗倫	和歌山県	大泉寺
石井和泉	栃木県	玄性寺
石井早苗	埼玉県	正覚寺
石田大龍	埼玉県	龍淵寺
石月聰明	福島県	長泉寺
市川智彬	神奈川県	興禅寺
伊藤仁志	千葉県	瑞岩寺
伊藤禅龍	北海道	法徳寺
伊藤治雄	愛知県	万松院
岩本昭典	東京都	吉祥寺
上村英雄	東京都	保善寺
鶴飼宏史	愛知県	禅林寺
大宅弘海	佐賀県	広厳寺
大西泰信	福島県	正法寺